

Music From The New World



かがわ文化芸術祭2011参加公演

高松交響楽団

第 107 回 定 期 演 奏 会
創 立 60 周 年 記 念 vol.2

2011 11.20 日

【開演14:00】

香川県民ホール 大ホール

【アルファあなぶきホール】

主催/高松交響楽団(TSO)

助成/(公財)慶應百年記念香川県文化芸術振興財団

共催/かがわ文化芸術実行委員会、(公財)慶應百年記念香川県文化芸術振興財団、香川県

指揮 齊藤 一郎 *Ichiro Saito*

福井県大野市出身。東京芸術大学で音楽学と作曲を学んだ後、東京芸術大学指揮科に入学。首席卒業後同大学院に学ぶ。指揮を伊藤栄一、遠藤雅吉、岩城宏之、若杉弘、湯浅勇治、佐渡裕、P. デジハイ、L. ハーガー、E. アツツェル各氏に師事。芸大在学中に安宅賞を受賞。岩城宏之氏のアシスタントとして多くの演奏会に同行。1998年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーンで研鑽を積み、帰国後N響のアシスタントコンダクターを2000年より約4年務めた。この間サヴァリッシュ、プロムシュナット、スヴェトラノフらの薫陶を受ける。1997年大阪センチュリー響でのデビュー以後大フィル、関西フィル、東響、九響、日フィル、広響、京響、札幌等国内主要オーケで客演している。2002年にはN響を指揮、2003年関西フィルで定期公演デビュー。同年「深夜の音楽会」で読響にデビューを飾る。国外ではセグト響（ハンガリー）、モラヴィア・フィル（チェコ）等への客演や、2005年スロヴァキアフィルの定演、現地ラジオで放送の2007年チェコ・バルドゥビツェ室内管の定演等がある。2009年4月よりセントラル愛知交響楽団常任指揮者に就任。次世代を担う指揮者として大きな期待が寄せられている。

コンサートマスター 福崎至佐子 *Hiyako Fukuzaki*

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本真理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチエフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グラーレの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グラーレ氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学発達科学部教授。香川大学教育学部講師。高松ミュージックスクール・ヴァイオリンコース講師。かがわジュニア・ニューフィルハーモニック・オーケストラ音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。香川県文化芸術振興審議会委員。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞（文化功労）」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。2011年1月、日本クラシック音楽協会第20回優秀指導者賞受賞。

管弦楽 高松交響楽団 *Takamatsu Symphony Orchestra*

1951（昭和26）年8月、故 緒方益朗氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾來、半世紀以上に亘る活動を続け、今年（2011年）創立60周年を迎えた。今回で107回となる定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008年）、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・ブラーナ（パレエ付き）」公演（2009年）をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジカ高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・ニューフィルハーモニック・オーケストラ（KJO）」、2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ（MCO）」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

創立60周年記念シリーズ第2弾となる今日の演奏会のテーマは「Music "from the New World"」です。New World（新世界）とはもちろんアメリカのことで、音楽劇「ミュージカル」と代表的民族音楽「ジャズ」のジャンルからそれぞれ一曲、メインの楽曲にはアメリカに足を踏み入れた異国の作曲家・ドボルジャークが故郷に宛てた音楽便り「新世界交響曲」と、いずれもアメリカにちなんだ名曲で皆様も一度は耳にしたことのある有名な楽曲を取りあげました。

指揮者は、三年程前の高響103回定期ではそのパワフルさで私たちを圧倒した齊藤一郎氏で、高響定期は二度目となります。「セントラル愛知交響楽団」の常任指揮者にも就任し、ますます円熟味を増すとともに、さらに一段とエネルギッシュなタクト捌きに磨きのかかった氏の元で演奏する私ども高松交響楽団の「Music "from the New World"」どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

プログラム

キャンディード 序曲 (L.バーンスタイン)

レナード・バーンスタイン (1918～1990) は、20世紀アメリカを代表する音楽家の一人です。しかも、指揮者・作曲家・ピアニスト・教育者として、多彩に活動し、その全てに対して第一級の功績を残した超人的な音楽家です。

さて、「キャンディード」は、フランスの哲学者ヴォルテールの同名小説をベースに、1956年に発表されたミュージカルです。内容は、主人公キャンディードが、風変わりな登場人物と共に大騒ぎをしながら舞台の上で哲学をするというもので、難解だったためか、初演は不評でした。翌年に、同じくバーンスタイン作曲のミュージカル「ウエストサイド・ストーリー」が発表され、こちらが大ヒットしたため、キャンディードの方は、お蔵入りになってしまいました。しかし、音楽そのものは、爽快な疾走感に溢れ、おもちゃ箱をひっくり返したようなとても楽しいもので、序曲は単独でよく演奏されています。近年ではミュージカル本体の再評価の動きも進んでいるそうです。日曜朝の音楽番組「題名のない音楽会」のテーマ曲としてもおなじみです。

ラブソディ・イン・ブルー (G.ガーシュウィン)

ジョージ・ガーシュウィンは、38年という短い生涯のうちに、ポピュラー音楽、クラシック音楽と、様々なジャンルで活躍し、特色ある「近代アメリカ音楽」を生み出していきました。中でも大きな功績は、アメリカの大衆音楽だったジャズと、クラシックを融合させ、シンフォニック・ジャズと呼ばれる新しい音楽を開拓したことです。

「ラブソディ・イン・ブルー」は、そんなシンフォニック・ジャズの代表作です。

クラシックのヴァイオラ奏者からポピュラー音楽の世界へ転進した音楽家、ポール・ホワイトマンからの委嘱により、1924年に初演されました。当初はピアノとジャズ・バンド用に書かれましたが、ホワイトマンが率いる楽団のお抱えのアレンジャーであったF.グロウフェによってピアノとオーケストラ用に編曲され、現在の形になりました。初演から80年程たった現在でも、この楽曲は輝きを失うこと無く大変人気のある作品となっています。近年では、音楽家志望の学生をコミカルに描いたドラマ「のだめカンタービレ」のエンディングテーマとして使われましたので、耳馴染みのある方も多いのではないかと思います。

弦楽器による歌うような美しいメロディはもちろん、クラリネットをはじめ、全ての管楽器がソリストイックに大活躍します。ソロの中でも特に重要な役割を担う独奏ピアノは、当団ピアノ奏者の上枝景子です。



ジョージ・ガーシュウィン
(1898～1937)

交響曲 第9番 ホ短調「新世界より」(A.ドヴォルジャーク)

この曲は、チェコ・ボヘミアの作曲家ドヴォルジャークが、アメリカ・ニューヨークの音楽学校の院長に招かれ、祖国を離れて赴任していた1893年に作曲されました。今や、古今の交響曲の中でも最も人気のある曲の一つとなっています。

彼は渡米後、遠く離れた異国の大都会で、望郷の思いを募らせ、ボヘミア移民の暮らすコミュニティに頻りに足を運んでいたそうです。その一方で、アメリカで耳にした黒人霊歌やインディアンにまつわる文学や音楽からも大いに刺激を受けました。この名曲は、ボヘミア人としての望郷の思いと、新世界アメリカでのインスピレーションが渾然一体となって生まれたのです。



アントン・ドヴォルジャーク
(1841～1904)

第1楽章 Adagio - Allegro molto

もの淋しい雰囲気が始まりますが、まるでドヴォルジャークがアメリカに向かう船のデッキに一人佇む様子を表現しているようです。その後、急に荒々しい雰囲気に変わりますが、これは初めてアメリカを見た衝撃でしょうか。十分気持ちが高ぶったところで主部に入ります。主部は、ホルンやトロンボーン等が奏でる躍動感のある第1主題、その後、物悲しい副主題に続いて、フルートで出てくる素朴で優しい第2主題からなっており、これらが楽章の中で様々な表情で奏でられ、絡み合っています。そして、この楽章の主題は、交響曲全体を貫く主題にもなっており、後に続く全ての楽章で顔を出します。

第2楽章 Largo

重厚で厳かな導入(全曲を通じてこの部分にのみチューバが加わる)に続いて、あまりにも有名なこの楽章のテーマがイングリッシュホルンで奏でられます。キャンプファイヤーの定番ソング「家路」等、後に歌詞が付けられて歌曲としても広く歌い継がれているこのテーマは、ドヴォルジャークがこの交響曲のために作曲したものです。そして、この楽章の魅力はこのメロディだけでなくとどまらず、中間部でも、涙をさそうオーボエや、コントラバスのピツィカート伴奏とする寂しげなクラリネット等、心を鷲掴みにして放さない素晴らしい歌に満ちています。ドヴォルジャークの郷愁の心が、極上のメロディとなって溢れ出ている楽章です。

第3楽章 Scherzo (Molto vivace)

アメリカの作家ロングフェローによる、インディアンの英雄叙事詩「ハイアワサの歌」の中から、インディアンの婚礼の祝宴の場面にヒントを得て作曲されたと言われています。インディアンが歌いながら踊る姿を連想させる様な、リズムで荒々しい舞曲が始まります。一転して歌謡風の旋律もでてきますが、この旋律はほぼ「四七抜き音階(通常の7音階からファとシを外した音階)」で書かれており、日本の演歌とも共通する音階なので、私たち日本人にも非常に親しみやすい節回しとなっています。もうひとつの旋律は弾むようなスラヴ風の雰囲気のもので、この楽章にだけ加わるトライアングルの響きが華やかです。

第4楽章 Allegro con fuoco

フィナーレも非常に有名な楽章で、たくましい力感に満ちた第1主題は皆様必ず聞いた事があると思います。ところで、話が横道にそれますが、ドヴォルジャークは大の「鉄道マニア」だったそうです。ニューヨークでも新型SLに大いに熱狂し、駅に出かけては見物をしていました。それを気に留めて聴いてみると、この曲の面白い側面が見えてきます。序奏と第1主題は、汽車が走り始める様を描写しているように聞こえます。そして、深い温かみのある第2主題に続いて、第1主題の音形を伴奏に、これまでの全ての楽章が回想されるあたりは、汽車の車窓から景色を眺め、アメリカや故郷の事を考えているかの様です。そして、長い余韻を残す独特なエンディングは、新世界から、遙かな故郷を思うドヴォルジャークその人の姿なのかも知れません。

演奏会のご案内

● 高松交響楽団 第108回定期演奏会

創立60周年記念 vol.3

日時：2012年6月10日(日) 14:00 開演
会場：香川県県民ホール 大ホール
指揮：黒岩 英臣
曲目：交響曲第6番「田園」(ベートーヴェン) 他



黒岩 英臣



● 高松交響楽団 第109回定期演奏会

日時：2012年11月18日(日) 14:00 開演
会場：香川県県民ホール 大ホール



● F・弦楽合奏団 クリスマスコンサート

日時：2011年12月25日(日) 14:00 開演
会場：香川県県民ホール 小ホール
主宰：福崎至佐子
主催：F・弦楽合奏団
協力：高松交響楽団



● 第10回まるがめクラシックギャラリーコンサート

日時：2012年1月29日(日) 14:00 開演
会場：丸亀市民会館
指揮：守山 俊吾
曲目：オペラ「ヘンゼルとグレーテル」【バレエ付】
主催：丸亀シティフィilharモニックオーケストラ
丸亀市福祉事業団文化事業部
共催：高松交響楽団



● KJO・かがわジュニアニューフィルハーモニックオーケストラ 公開レッスン&発表会

日時：2012年3月24日(日) 14:00 開演
会場：香川県県民ホール 小ホール
指導：山崎 盾之
主催：香川県
協力：高松交響楽団



● KJO・かがわジュニアニューフィルハーモニックオーケストラ 第11回定期演奏会

日時：2012年9月1日(土) 14:00 開演
会場：香川県県民ホール 大ホール
指揮：田中 一嘉
フルート：久保 仁美 (KJO 団員)
曲目：カルメン幻想曲 (ビゼー=ボルス編)
交響曲104番「軍隊」(ハイドゥン)
動物の謝肉祭 (サン=サーンス)
主催：香川県
協力：高松交響楽団



※各公演の内容は若干変更になる場合がございます。

団員募集のお知らせ

【2011年度・第2期】

募集締切 2011年11月末
募集パート 打楽器1名、弦楽器若干名
選考方法 オーディションによる

【問合せ・チケット事前予約】 e-mail: tso@symtop.org

【高松交響楽団ホームページ】 <http://www.symtop.org/tso/>

(ホームページ制作協力：ファインキャット <http://www.fine-cat.com/>)